

農業革新支援スタッフ(高冷地栽培)

スイートコーン倒伏軽減対策技術の開発



倒伏軽減対策の実証ほ

富士山麓地域では、夏秋に収穫するスイートコーンの栽培が盛んに行われており、地域を代表する特産農産物となっています。しかし、収穫期が台風シーズンと重なるため、倒伏等による被害が発生し、収量の減少や品質低下など生産不安定な要因となっています。

そのため、総合農業技術センターでは、スイートコーン倒伏軽減対策技術を開発し、「富士山野菜生産者協議会」や地域普及センター、JA等と連携して現地への普及に取り組んでいます。

今年、1畝に1条ずつ植え付けて株の根張りを良くする「1条栽培」と、雄花を受粉終了後に切除し、風の抵抗を小さくする「トッピング」技術を、現地の圃場で導入し効果を検証しています。8月末まで台風の被害が少なかったものの、作業性の向上や品質の面で生産者から一定の評価を受けるなど現地での実用性が確認できました。

今後も技術の普及拡大に向け、「富士山野菜生産者協議会」や関係機関と連携して取り組んでいきます。



富士北麓に広がるスイートコーン畑

農作業を安全に行いましょう

農業用機械の利用は、農作業の効率化のためとても効果的ですが、一方で取扱いを間違えると重大な事故につながる危険性があります。県内の多くの地域ではすでに収穫のピークを過ぎ来作に向けた管理作業に入る時期ですが、近年、トラクターや高所作業車等の使用中の事故が増えています。農業用機械の操作には、くれぐれも注意していただくようお願いします。

声をかけあい 助けあい 作業事故〇へ!

一人ひとりの安全意識と 仲間との「声かけ」が農作業事故を防ぎます。

- トラクターによる事故**
トラクターが転倒・転落し、投げ出されて機体の下敷きになった...など
- 高所での作業中の事故**
自立での作業中、設置時のバランスが不安定だったり天候に上ったりした際に転落して怪打った...など
- 耕うん機・コンバインによる事故**
耕うん機をバックさせたところを歩行者の間に挟まれた。コンバインの手こぎ作業で手を巻き込まれた...など
- 草刈り機の事故**
草刈り機の使用中に足を踏んで足を切る。草の葉内の作業で集中になる。除草機をやっていて火に付いた...など

農林水産省



山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集/発行 山梨県農政部農業技術課 住所 〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
Tel.055-223-1619 Fax.055-223-1622
URL.http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/
E-mail.nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

農業革新支援スタッフ (農業技術課)

GAPの取得続々と

この7月1日から申請を受け付けている「やまなしGAP」の現地審査がいよいよ9月から始まりました。現在、多数の問い合わせが農業技術課に寄せられており、生産者の関心の高さが伺われます。また、農業生産法人などを中心に「JGAP/ASIA GAP」や「GLOBAL G.A.P.」の取得や取得準備も急速に進んでいます。

昨今は「農作物の安全・安心」、「環境保全型農業の実践」、「農作業の労働安全」を実践していることを示す唯一の仕組みがGAPであるとの認識が広がっています。GAP取得に向けた相談や指導は農業技術課や各地域普及センターで行っています。



やまなしGAP 認証に向けた 現地審査実施研修



農業革新支援スタッフ (果樹)

県オリジナル品種モモ「夢みずき」について

「夢みずき」は、果樹試験場で「浅間白桃」に「暁星」を交雑し、平成25年に品種登録されたモモの新品種です。品質が優れるため山梨県オリジナル品種として苗木供給が始まっており、これまでに4,500本を超える苗木が県内のモモ農家へ配布されています。

この品種の特徴は、花粉があり、白鳳の3日程度前の7月上旬中に収穫となります。成木では400g程度の大きくなり、着色が良く糖度も高く食味が優れることから県下のモモ産地での普及が期待されています。



市場での試食宣伝の様子

変形果がやや発生する特徴もありますが、摘果等の管理により解消出来るため、現地での実証ほを活用した栽培性の検証や、JA営農指導員との研修会の実施により、安定生産に向けた取り組みを進めています。

昨年からの市場出荷も始まっており、今年は昨年を大きく上回る4t以上が出荷されました。

今後も継続して、オリジナル品種の普及と定着及び高品質安定生産に向けた産地づくりを支援していきます。

地域の担い手となる法人の支援

中北地域は県内有数の米どころですが、高齢化や担い手不足のため水田の遊休化が懸念されています。そのため、永続的な地域の担い手育成が必要であり、地域の農業者が共同で作業受託などを行っている団体や個人を対象に法人化の支援を行っています。

北杜市明野町では、永井地区の農業者15名が中心となり、農業経営法人化等支援事業を活用し、平成27年に法人を設立しました。今年、これからの経営発展に向け、集落の方々とともに農地中間管理機構を活用した圃場の集積を検討しています。

農地中間管理機構事業を活用することで、水路などの改修や複数の地権者との賃料支払事務手続が一本化されるなど、農作業と経営事務の両面において効率的な規模拡大が図られます。また、耕作放棄地発生未然防止に繋がり、地域住民からも期待されています。

今後も、地域の担い手となる法人育成のため、新規設立や経営改善に対し継続して支援を行っていきます。

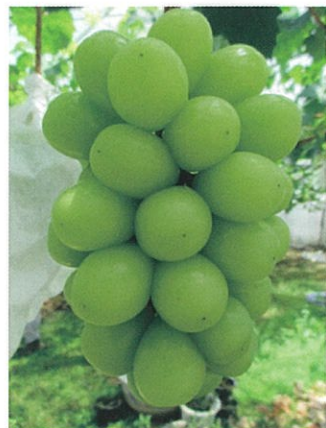


水路改修工事の現地確認



農地中間管理機構の活用に関する住民説明会

「シャインマスカット」の産地間競争を勝ち抜く!!



ハウスシャインマスカット果房

消費者の人気の高いブドウの「シャインマスカット」は、生産量も全国的に急増し、主要産地間での競争が激化しています。

こうした産地間競争を勝ち抜くため、峡東地域普及センターでは「シャインマスカット」の高品質安定生産を図る技術実証などに取り組んでいます。

高品質安定生産に向けた取り組みとして、ハウス栽培では優良事例調査に基づく加温体系の改善、高標高地の特色を活かした収穫期延長栽培の検討などを行っています。

また、一戸当たりの栽培面積の拡大に対応した省力化技術として、果樹試験場で発表した上部支梗を用いた省力化技術について現地実証ほを設置し、作業労力の軽減程度や作業上の問題点、果実品質などを検討しています。

普及センターでは、関係機関と協力し、品質、出荷量ともに日本一の産地となるように、今後も重点的に支援を行っていきます。



収穫期延長技術(簡易雨よけ)



『甘々娘』の省力技術導入による生産拡大への取り組み



関係機関による現地検討の様子



モロコシ部会での結果検討会

市川三郷町は県内有数のスイートコーン産地であり、高い栽培技術により高品質なスイートコーン『甘々娘』を生産し、市場や直売所で高い人気を得ています。市場から生産量の増加が期待されていますが、朝夕のトンネル換気作業が面積拡大の大きなハードルとなっています。

そこで、普及センターでは昨年からJA西八代モロコシ部会と協力し、資材や換気方法による省力化を検討しています。現在までに7軒で試験導入され、省力効果があり品質も良いことから、来年度はさらに多くの農家が取り組む予定です。気象条件は毎年違うため、複数年継続して調査していく必要がありますが、換気作業が省力化されれば、高齢の農業者も現在の栽培面積を今後も継続でき、若い生産者は栽培面積を拡大することが可能となります。

普及センターでは、今後も省力化にむけた栽培試験を行い、技術の確立と栽培面積拡大に向け、部会と共に取り組んでいきます。



富士河口湖町におけるモモの生産に向けて

普及センターでは、富士河口湖町におけるモモの生産・販売に向け、町や地元の有志と協力し試験栽培に取り組んでいます。

モモは寒害の影響を受けやすいため、寒冷地での栽培は適さないといわれています。しかし、本栖湖周辺には「富士野生桃^{ふじやせいもも}」という自生種があることから、これを台木に用いるなど、地域にあった栽培方法を検討してきました。試験は継続中ですが、昨年、初収穫を迎えることができました。今年は、少雨による影響が懸念されましたが、順調に生育し収穫量も増えたことから、町内の観光施設において試行販売を行いました。

富士河口湖町内では、過去にサクランボやブルーベリーなどが導入され、摘み取り園など観光農業が定着しています。今後は桃が新たな特産品となるよう、栽培技術の確立や生産拡大を目指していきます。



試験ほ場の様子



収穫期のモモ